

中島淑恵 業績一覧

【著書】

1. (共著) Toshié NAKAJIMA, « La réception de Lafcadio Hearn par ses contemporains parisiens - essai sur le japonisme littéraire » in Paradoxes du plurilinguisme littéraire 1900; Réflexions théoriques et études de cas, P.I.E. Peter Lang · 2015 · pp:251-261.
2. (共著) 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアン」沓掛良彦編『詩女神の娘たち』未知谷、平成11年9月、207頁-224頁。

【論文】すべて単著。

1. 中島淑恵「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詞華集』英語版の書き込みについて②— セミとキリギリスに関する詩を中心に —」『富山大学人文学部紀要』第69号、2018年8月、203-215頁。
2. 中島淑恵「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詩華集』英語版の書き込みについて①」『富山大学人文学部紀要』第68号、2018年2月、155-170頁。
3. 中島淑恵「ヘルン文庫書き込み調査報告—『ギリシア詞華集』と『ルバイヤート』をつなぐもの—」『ヘルン研究』富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会、2018年3月、110頁-127頁。
4. 中島淑恵「ラフカディオ・ハーンのニューオリンズ時代における日本との出会い—「日本の詩瞥見」をめぐって—」『富山大学人文学部紀要』第67号(2017年8月)153-167頁。
5. 中島淑恵「ハーンは八雲をいつ知ったか—ヘルン文庫のフランス語本から伺えること『へるん倶楽部』第15号、富山八雲会、2017年6月、1-8頁。
6. 中島淑恵「ラフカディオ・ハーン旧蔵書『ギリシア詞華集』仏訳版の書き込みについて—昆虫譚と幽霊妻をめぐって—」『富山大学人文学部紀要』第66号 2017年2月175-189頁。
7. 中島淑恵「ラフカディオ・ハーンとシャルル・ボードレー—ボードレーの4つの散文詩の英訳をめぐって—」『富山大学人文学部紀要』第65号 2016年8月 203-219頁。
8. 中島淑恵「エレディアを読むハーン」『日本フランス語フランス文学会中部支部研究報告集』 No 40、2016年12月 93-114頁。
9. 中島淑恵「ハーンとボードレー—米国ヴァンダービルト大学ハーン関連ファイルの調査から—」『へるん倶楽部』第14号、富山八雲会、2016年6月、40-50頁。
10. 中島淑恵「ボードレーとハーン—東京帝国大学の講義録から—」『ヘルン研究』創刊号、富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会、2016年3月、136-141頁。
11. 中島淑恵「詩の生成—「コブレンツの思い出」から「不安な死者たち」へ—」『富山大学人文学部紀要』第64号、2016年2月、305-319頁。
12. 中島淑恵「詩の生成—ポーリーヌ・メアリ・ターン「コブレンツの思い出」をめぐって— その2」『富山大学人文学部紀要』第63号、2015年8月、313-327頁。

13. 中島淑恵「ラフカディオ・ハーンのヴィクトール・ユゴー評—子どもの詩を中心に—」『へるん倶楽部』第13号、2015年6月、1-9頁。
14. 中島淑恵「詩の生成—ポーリーヌ・メアリ・ターン「コブレンツの思い出」をめぐって— その1」『富山大学人文学部紀要』第62号、2015年2月、269-285頁。
15. 中島淑恵「ボードレー『悪の華』初版における付加形容詞の前置について ①」『富山大学人文学部紀要』、2014年8月、215頁-232頁。
16. 中島淑恵「少女が大人になるとき—ルネ・ヴィヴィアン16歳の草稿から—」日本フランス語フランス文学会中部支部『研究報告集』第38号、2014年12月、69-88頁。
17. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアンとラフカディオ・ハーン（2）—ポール・リヴェルスダール『二重の存在』における「餓鬼」の記述をめぐって—」『富山大学人文学部紀要』、2013年8月、135-150頁。
18. 中島淑恵「エレーヌ・ド・ジュイレン・ド・ニーヴェルト『最期の抱擁』における日本—20世紀初頭のフランス文学におけるジャポニスムの変容 ①—」『富山大学人文学部紀要』、2013年2月、183頁-210頁。
19. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアンと日本の三人の女流詩人—ポール・リヴェルスダールの著作における小野小町・清少納言・加賀千代女の記述をめぐって—」『富山大学人文学部紀要』、第57号、2012年9月、165-189頁。
20. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアンとラフカディオ・ハーン—ポール・リヴェルスダール『二重の存在』における蛍の表象をめぐって（1）—」『富山大学人文学部紀要』、第56号、2012年3月、225-264頁。
21. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアンと日本—ベル・エポックにおける日本文化受容のひとつのあり方として②—」『富山大学人文学部紀要』、第55号、2011年9月、201-217頁。
22. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアンと日本—ベル・エポックにおける日本文化受容のひとつのあり方として①—」『富山大学人文学部紀要』第54号、2011年3月、189-217頁。
23. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアン『雌狼を連れた貴婦人』における男と女—その2—」『富山大学人文学部紀要』第53号、2010年9月、245-274頁。
24. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアン『雌狼を連れた貴婦人』における男と女—その1—」『富山大学人文学部紀要』第52号、2010年2月、187-212頁。
25. 中島淑恵「ルネ・ヴィヴィアンの三つのイメージ—翻訳と解説—」『富山大学人文学部紀要』第49号、2008年8月。
26. 中島淑恵「愛される女のからだ」東京外国語大学比較文学研究室紀要『ALBA』第2号、2002年3月、
27. 中島淑恵「ボードレー『悪の華』における花—花をめぐるレトリックの変容論のために」『富山大学人文学部紀要』第35号、2001年8月、107-120頁。
28. 中島淑恵「ボードレー「屑屋の酒」における音的洗練の軌跡」『東北大学フランス文学会『フランス文学研究』第17号、1996年2月。

29. 中島淑恵「名状しがたいものー『パリの憂愁』における<je ne sais quoi>」東北大学文学部紀要『文化』第 59 巻、1995 年 9 月。
30. 中島淑恵「恋愛詩における二人称の用法ーボードレール『悪の華』サバチエ詩群を中心に」東北大学フランス文学会『フランス文学研究』第 16 号、1995 年 2 月。
31. 中島淑恵「詩における時間性ーボードレール「恋人たちの死」の未来形が意味するもの」、東北大学フランス語フランス文学会『フランス文学研究』第 15 号、1994 年 2 月。
32. 中島淑恵「『パリの憂愁』のロマネスクまたは女性の形象」、日本フランス語フランス文学会『フランス文学研究』第 65 号、1993 年 10 月。
33. 中島淑恵「ボードレールの散文詩「港」についての一考察」、木魂社『エポス』第 14 号、1993 年 7 月。
34. 中島淑恵「『石罅』試論」東京外国語大学比較文学研究室紀要『ALBA』第 1 号、1989 年 3 月。

【翻訳】

1. (単独訳) ルネ・ヴィヴィアン『堇の花の片隅で』、彩流社、2011 年 3 月。
2. (共訳) アンリ・トロワイヤ『ヴェルレーヌ伝』(共訳者：沓掛良彦)、水声社、2005 年 6 月。
3. (共訳) アンリ・トロワイヤ『ボードレール伝』(共訳者：沓掛良彦)、水声社、2002 年 1 月。